創部 70 年記念史の発行にあたり

この度、永く重い伝統を誇りとしてこれからも未来に引き継いでいくために 70 年の歴史を記念史として発行する事にしました。

昭和 55 年の旭工ラグビーOB 会の立ち上げにあたり、創部メンバーの木村達郎さんはじめ前会長の藤山勉さんたちからの聴き取りと、関連して各世代の方々から寄せられ把握しているラグビー部卒業生は部員・マネージャーを含めて平成３０年度卒まで５００名余りの OB・OG が仲間入りしています。

卒業年度別チーム名簿や戦績など資料の収集作成に当たり、北海道各地を取材して走り周ってくれた関沢彰一さんはじめ、多数の方々のご協力をいただきましたが、漏れ不明の点が多々あるものと思います。お許しください。

訂正・追加等あれば続けて修正編集しますので下記の事務局まで申し出下さい。

令和 1 年 8 月吉日

「旭工ラグビー７０年のあゆみ」編集委員会
取材・記事情報収集　関沢　彰一 S.43 年度卒
編集責任者　中江　政博 S.39 年度卒
編集構成　松本　浩司(前中日新聞記者)

旭工ラグビー部 OB 会事務局
担当　只石　幸夫 S.45 年度卒
078-8368　旭川市東旭川町旭正 315-2
NPO 法人カムイ大雪バリアフリー研究所
カムイ大雪バリアフリーツアーセンター　気付
090-2695-4611 FAX 0166-38-8211
Mail：kamuitad at sc-kamui.co.jp
※上記アドレスの at を@に置き換えてください。

旭工ラグビーOB会長あいさつ

平成30年12月

旭工ラグビー部OB会
会長　中江政博（昭和39年度卒）

母校ラグビー部が創部70周年を迎え、心からお喜び申し上げます。

◉戦後まもない創部から、600名余りのOB・OGが築いた伝統

1949（昭和24）年、旭川市1条24丁目（現在の旭川東警察署に校舎、厚生病院の所にグラウンド）で、故木村達郎さんが中心となり、ラグビー部（同好会）が誕生致しました。翌年には富良野に勝って全道大会に出場しています。

当時は小石混じりの硬いグラウンドで、野球・陸上・ラグビー・サッカーが共有して狭いスペースで練習に励んでいました。またグラウンド入口付近には定時制の食堂があり、夏休みにはこの2階で米と寝具持参で自炊をしながらの合宿を思い出します。現校舎は昭和57年6月に移転して、それによって野球・陸上・球技場（サッカー・ラグビー）の専用グラウンドに変わりました。

創部時は戦後まもなく物資が少なく、また専任の指導者も不在の中での部活動は大変ご苦労があった事と推察致します。部が存在して70年を迎えられたのは諸先輩・顧問の先生ら関係者の皆様の熱意と努力の賜ものと思い、ご尽力に対して深く感謝申し上げます。70年の歴史の中では部員不足で戦績も今ひとつ、または不参加の時代もあったと聞いております。戦績は別表で詳しく記録していますので見て下さい。

高校ラグビーの旭川・富良野地区は富良野が強く、旭工は残念ながら地区優勝は8回しかありません。現在の地区ラグビー部校は旭工・旭龍谷・旭東・羽幌・富良野5校のみで部員不足の時は合同チームで出場します。来シーズンは空知地区の芦別高が加入します。また部員不足の学校の統廃合等で富良野工業・名寄農業・稚内商工・旭川南・留萌・中頓別等の高校が消えていきました。当地区からの花園出場は旭龍谷3回、富良野2回、富良野工1回、旭工1回となっています。北北海道は北見北斗が強い時代が続きましたが、ここ数年は混戦状況になってきました。

◉ロスタイムでの大逆転劇

平成28年の地区大会では富良野に決勝で大敗しましたが、全道大会出場権を取り、準決勝では地区大会で大敗した富良野にロスタイムで逆転して見事48年ぶりの決勝進出を果たしました。決勝相手は名門の北見北斗です。点の取り合いで後半、14点差をつけられていましたが、タイムアップ数分前に同点に追いつき、ここでもロスタイムに執念の大逆転トライを上げて創部68年目にして花園初出場を決めてくれました。

東光スポーツ公園での地元開催で多数の応援の方の大声援が後押ししてくれる中、見事その声援に応えてくれました。そして花園出場のための後援会をOB会・父母会で立ち上げ、資金集めに走り回り、目標金額に達することができました。OB・OGまた関係者皆さまの温かいご支援に改めてお礼を申し上げます。

◉花園常連相手に意地のトライ

全国大会では、野呂田花マネージャーの持つプラカードを先頭に、堂々の入場行進をしてくれました。初戦は宮崎県代表で花園常連の高鍋高と対戦しましたが、初出場での硬さ・プレッシャー・体力の差で圧倒され、普段のラグビーが全くできませんでしたが、最後に意地のトライを上げて今後に繋がる初出場が終わりました。

しっかりと普段からの練習をしていけば花園の道が開かれていくことが分かりましたので、2回3回と続くように期待しております。

◉大学日本一、社会人チャンピオン、トップリーグ出場と活躍するOBたち

ラグビー部出身者では昭和43年に初の決勝戦に出た高橋博君が明大に進学して1年生からWTBで活躍して3年生の時、大学日本一になっています。

昭和47年度卒の井川芳行君も明大に進学してWTBで1年生から出場し、4年生の時には大学日本一となり、日本選手権では社会人チャンピオンの三菱重工京都に勝って日本一に輝き、その後は日本選抜チームの一員として桜のジャージを着て活躍しました。

また北海道代表選手には次の諸氏が選出されています。

昭和38年度卒の故関口孝紀、管野真澄、39年度卒の中江政博（2回）、45年度卒の故鹿内直樹（8回）、46年度卒の上西光義、49年度卒の岩崎満（5回）。鹿内、岩崎両君は新日鉄室蘭で活躍して社会人チャンピオン、国体全新日鉄チームとして海外遠征をしています。近年では平成25年度卒の大西樹君が高校道代表となり、流通経大に進学して4年生の時は主将を務め、平成30年にトップリーグのパナソニックに入社して1年目から出場して初トライを上げるなど活躍中で、将来の日本代表を目指しています。

平成28年花園出場の主将、天野拓斗君は高校国体道代表で、札幌大に進学して1年生からNo8で出場して全国地区大会選手権大会で準決勝を経験して、将来を嘱望されています。このように多くの優秀選手が育っています。これからも先輩に続く選手がでることを期待しています。

また最近は強化できる環境ができつつあります。花園出場の時に集まった支援金の残金でビニールハウスを大型に建て替え、用品収納のコンテナハウスを新設しました。さらに旭川ラガー・旭川教育大・旭川医大による指導強化練習、父母会の熱心な応援ほか種々のサポート、OB会のサポート等ができています。

◉開かれた、花園への道。躍動し、OB のサポートで再び出場を

あとは現役部員のラグビーに対する強い情熱、意欲ある練習等、一人ひとりの努力で花園の道は開かれていきます。声援に応えられるように躍動してください。

そして OB・OG の皆さんは強力なサポートで応援していただきたいと思います。週末はグラウンドで選手と一緒に汗を流しましょう。そして花園に行くお手伝いをしていただきたい。

ラグビーは 2019 年ワールドカップが日本で開催され、札幌でも 2 試合が予定されています。少しずつラグビー人口が増えていくことが予想されます。その中で旭工ラグビー部が強化されて輝くチームに育っていくことを願っています。70 周年の記念に対しお祝いすると共に OB・OG、皆さま全員のご健勝をお祈り申し上げます。

この 70 年のあゆみを作成するにあたり、長い年月をかけ全道くまなく取材して頂いた関沢彰一(昭和４３年卒)君にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

最後になりますが、部発展のため、ご指導ご協力を賜りました多くの故人の皆様に感謝申し上げるとともに、ご冥福をお祈り致します。